

ぱすてる

・「女らしさ、男らしさ」って何だろう
 ・今どきの子育て—父親学級レポート



創刊号—1999.11



この会は、農業に携わる女性の生活向上を目的に発足し、主に「食」にかかわる諸事業を展開中です。

生活改善クラブ

女性が中心になり活動しているグループの登録受付中です。自治振興課女性政策担当へ。☎765-1710

グループ紹介

コーペル蓮田支部

女性の地位向上・福祉活動・環境問題をテーマに、地域に根ざした、また日常生活の視点で地道な活動をしています。



市支部の発足は昭和49年ですが、今年コーペルは創立40周年です。埼玉会館で記念大会を開きました。

今年の目玉は「食と農を考えるつどい」で、会員みんなで知恵を絞って、協力しあって開催しました。

代表・小沢はつ江

ご存じですか— 男女共生へのキーワード

（エンパワーメント）

力をつけること。「女性のエンパワーメント」とは女性の可能性を十分に開花させ、多様な選択を可能にすること。そのためには、教育、及び職場などでの意思決定への参画が重要であるといわれています。

（男女共同参画社会）

男女の権利が等しく尊重され、社会参加意欲あふれた女性が自らの選択によって生き生きと活躍でき、男性も家庭や地域で人間らしい生き方ができるバランスのとれた社会像です。

（婦人と女性）

「婦人」には、女性に対する男性のような適当な対話がなく、また、結婚した女性を意味する「婦人」より「女性」のほうが広い意味で使われています。行政においても「女性」を使うようになってきています。

（女性差別撤廃条約）

正式には「女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約」。女性も個人

— 編集員紹介

私たちが編集しました



- ◆ 老若男女を問わず新しい仲間参加を待っています。 音藤レイコ
- ◆ 初体験で、編集の難しさと創る楽しさを知りました。 榎本 裕子
- ◆ 法も立ち入れぬ「意識」にふれる難しい変革の一つです。 高柳 由香
- ◆ 新米☆主婦&蓮田市民の私には記念の創刊号です。 竹野谷美紀
- ◆ 身近な事柄から「意味」を考えていきたいと思えます。 北川 育子
- ◆ 21世紀を生きる女性へのメッセージをお届けします。 須賀美千代
- ◆ 新しい出会いと経験、私の輪がまた大きくなりました。 佐藤 浩子

▼ 講演会のご案内 ▼

毎年、市民の皆さんに大勢参加していただいている「コミュニティ講演会」ですが、平成11年度は来年1月下旬を予定しています。

講師は東京大学大学院教授の大森彌氏で、「まちづくり」「男女共同参画社会づくり」をテーマに講演していただく予定です。



私の名前は「ぱすてる」です

私達は子どもの頃から女はピンク、男はブルーと従来の固定観念にとらわれてしまっていることが多いようです。男女が性別にこだわらず自由に好きな色を選べ、柔軟な発想ができることを理想としていきたいと願い、柔らかな中間色という意の「ぱすてる」としました。

発行／蓮田市役所市民経済部自治振興課
 〒349-0193

蓮田市大字黒浜2799-1
 ☎048-768-3111

内線278

ジェンダーチェック

* 「はい」か「いいえ」に○をつけてください。

- A. 家族関係
- 女性(妻)はいつも男性の好みを優先させて献立を考える。 はい いいえ
 - 夫は「だれに食わせてもらっているんだ」とよくいう。 はい いいえ
 - 夫を「主人」と呼ぶのは当然だ。 はい いいえ
 - 男性(夫)の経済力(資産や所得)が女性の2倍以上ある。 はい いいえ
 - 妻は当然夫の家の暮に入るものだ。 はい いいえ
- B. 家事
- * 女性は身近な男性(夫・息子・父・恋人など)を思い浮かべてチェックしてください。
- お茶は自分でいれる。 はい いいえ
 - ゴミの分別ルールを知っている。 はい いいえ
 - トイレトペーパーの値段を知っている。 はい いいえ
 - 料理のレパートリーが5つ以上ある。 はい いいえ
 - 普段トイレ掃除をしている。 はい いいえ
- C. 育児
- * 現在育児を経験していない人は、将来を想像したり、すでに卒業した人は過去を振り返って自己点検してください。
- 女の子はしとやかに、男の子はたくましく育てる。 はい いいえ
 - 父親はいざというときだけ育児に登場すればいい。 はい いいえ
 - 「女のくせに」とか「男のくせに」と叱ることがある。 はい いいえ
 - 女の子の成績がいいと、つい「この子が男の子だったら」と思う。 はい いいえ
 - 男の子より女の子の言葉づかいが気になり厳しく注意する。 はい いいえ
- D. 介護ケア
- ちらかすのは男性、片付けるのはいつも女性だ。 はい いいえ
 - 家族のために自分を犠牲にする「耐える女」が理想だ。 はい いいえ
 - 寝たきりになったら男性よりも女性に世話してもらいたい。 はい いいえ
 - 食事やパーティの場のもてなし役はいつも女性。 はい いいえ
 - 親が倒れたら女性(娘や息子の妻)が退職して看病すべきだ。 はい いいえ
- E. 仕事と家庭
- 「子育ても、いい仕事も」と望む女性はわがままだ。 はい いいえ
 - いい仕事をするには、家庭のことは忘れるぐらいがいい。 はい いいえ
 - 子どもが小さいうちは母親は、外で働かないほうがいい。 はい いいえ
 - 仕事のできる男性は育児休業をとらないほうがいい。 はい いいえ
 - 女性が両立に悩んでいたら「無理せず退職を」とアドバイスする。 はい いいえ
- F. 余暇・社会活動
- デートの費用はいつも男性が持つ。 はい いいえ
 - 家族の休む休日、女性(妻)はかえって忙しい。 はい いいえ
 - 男性(夫)は休日も家族より趣味や仕事の仲間と過ごす。 はい いいえ
 - 男性(夫)のレジャー費用の方がかなり費用がかさんでいる。 はい いいえ
 - 家族の中でボランティアや地域の活動に熱心なのは女性だけ。 はい いいえ

はい いいえ

はい いいえ

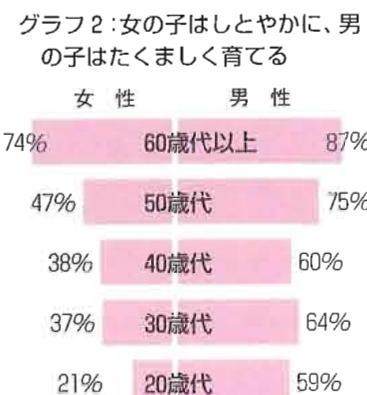
はい いいえ

はい いいえ

はい いいえ

はい いいえ

▶ 男性の料理教室(保健センター)



はめて育てるのではなく、子どもにあった個性を伸ばせるような環境をつくっていくことが大切です。



平田 紀子さん (連 Ⅲ)

最近、職業を持って外で働く女性が増えていますが、私は結婚後ずっと専業主婦です。外で男性が働くのも、女性が家事をするのも同じ仕事だと思っし、子供を産み育てるのも女性の仕事と思う。私は主婦であることに誇りをもっているし、夫の給料のなかに、家事労働の分も入っていると思っています。

評価の仕方

* Bは「いいえ」を、その他は「はい」の数を合計してください。

26~30点 洗滞中です
高得点に喜ばないでください。性別にこだわりすぎて男女平等への道を渋滞させています。

16~25点 点減信号、要注意です
家族の中に、性別による決めつけや、男性優位の傾向がまだまだありますね。不満や疲労のサインが点減しています。

6~15点 手を上げて、横断歩道を渡りましょう
このままいけば世の中は自然に変わるはずと安心していませんか。男女平等のために手を上げるのはあなたの役目です。

0~5点 全方向OK、スクランブル家族です
性別にこだわらず好きな生き方ができるスクランブル交差点のような家族ですね。

(資料提供:財団法人東京女性財団)

特集

「女らしさ、男らしさ」って何だ

〜ジェンダーフリーの社会をめざして〜

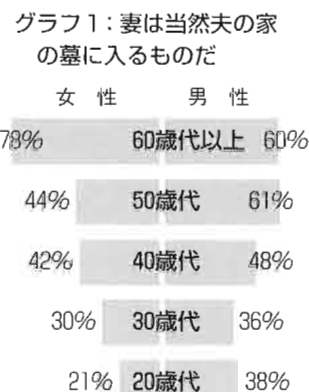
日常生活には「女らしさ」「男らしさ」などのように、男女の性別によって生き方や役割を規定していることがたくさんあります。一人ひとりが真に豊かな生活を実感できる男女共同参画社会を実現するために、新しい男女の在り方について考えてみませんか。

「男は仕事、女は家庭」
性別による役割分担を見直そう

ジェンダーとは生物学的な性差ではなく、社会的・文化的に形成された「女らしさ」「男らしさ」のことです。こうした固定的性別役割意識は長い歴史のなかで培われてきたために、なかなか気づきにくいものです。「ジェンダーチェック」(P.3参照)は、家庭や毎日の生活に何気な

妻と夫は上下関係?
パートナーとは対等が理想

く組み込まれた男女の在り方に気づき、見直してもらうために作成されたものです。530名の市民の皆さんにご協力いただいた「ジェンダーチェック」の結果をお知らせしますので、皆さんも気軽にチェックしながら、一緒に考えてみてください。



男子厨房に入るべし
あなたも家事してまうか

ながらも、現実の場では男性優位の意識がうかがわれます。パートナーとの関係は対等はず。理想の夫婦関係をめざしたいものです。

「家事は女性の仕事」と考える男性はまだまだ多いもの。「お茶は自分でいれる」との問いに5割近い男性が「いいえ」と答えています。定年を迎えた60歳代以降では、自分でお茶を入れる男性が増え、家事への関心・協力度が増しています。

また、女性は男性の家事能力を低く評価している傾向にあることがわかりました。男性に家事を期待しない女性の態度こそが、「家事をしないできない男性」を

子育ては「らしさ」ではなく
子どもの個性を伸ばそう

つくり上げているのかもしれない。

女の子にはピンク、男の子にはブルーの服を着せていませんか。女の子はしとやかに、男の子はたくましく育てる」という問いには、「はい」と答えた男性がすべての年代で女性を上回りました。男性は社会通念上の固定的性別役割にこだわっているようです。大人たちが子どもを「女(男)の子は女(男)らしく」と型に



佐藤 知信さん (綾 瀬)

平成9年に彩の国共生大学校で学び、初めて男性も女性も男女共生へ向けて意識を変えなければいけないと気づきました。以前は「女のくせに」「男だから」という意識が強くなりましたが、まずは「男女共生は家庭から」と家の掃除から始めました。きれいになった後の爽快感は、何とも言えないですね。

●ジェンダーとは…「女らしさ・男らしさ」といった社会的文化的につくられた性別のことです。

もし、動けなくなったらだれに介護してもらいますか

少子・高齢社会を迎え、高齢者介護は私たちの身近な問題になってきています。男性だけではなく女性自身にも「寝たきりになったら男性よりも女性に世話してもらいたい」と考えている人が多いようです。老いは皆に平等にやってきます。女性は「男性に介護してもらいたくない」という意識を捨て、男性は「男に介護などできるはずはない」という考えを改めることが必要です。お互いに足りないところをかばい合い、補い合って介護問題に取り組みたいものです。



仕事と家庭のバランス 働く女性に理解を

男女雇用機会均等法が施行され、女性の社会進出が進むなか、結婚や妊娠を経ても仕事を続ける女性が増えています。「子どもが小さいうちは母親は、外で働かないほうがいい」には、全体で7割近

い人が「はい」と答え、また「女性が両立に悩んでいたら、無理せず退職を」とアドバイスする人も平均で5割ほどと、まだまだ「育児は女性の仕事」と考える人が多いようです。いずれも男性のポイントが高めなのは、女性が外で働くことを望んでいないようにも見受けられます。男性がもう少し理解を示せば、女性も安心して仕事を続け、能力を発揮できる場が増えるのではないのでしょうか。



土橋 浩子さん (東3丁目)

私が育ったころは、父親は仕事、母親は家事という家庭が多かったです。でも、これからは女性も外へ出て、社会と積極的にかかわりたいですね。そのためにも男性の育児休業や保育施設の充実に期待しています。10月にスタートしたファミリーサポートセンターは、女性を支援してくれる制度として心強いですね。

夫は家で「ゴロゴロ」 妻だって休みがほしい

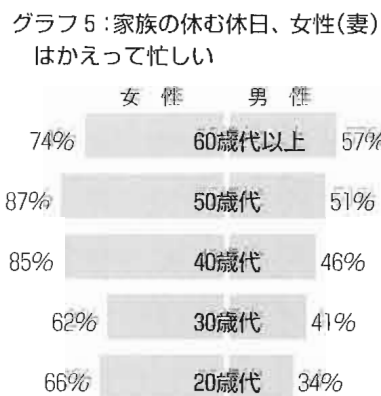


城西大学女子短期大学部 助教授 青島 祐子さん (樺山4丁目)

自分の中にある“ジェンダー”に気づく

男性と女性(夫と妻)が対等の意識をもつようになって一方、日常の行動部分では依然として性別役割分業が維持されていることがわかります。なかでも、イエ意識の強さと、「介護は女の仕事」という思いこみは、これからの少子・高齢社会を生きるうえで大きなネックとなりそうです。全体を通して、男女の差がそれほど出ていないことが気になります。これは、「女の役割」を受け入れている女性が多いことを示唆しています。ジェンダーとは、制約の多い生き方を強いられてきた女性の側からの、異議申立てとして生まれた概念であることを思い起こしてください。

私たちのだれ一人として、生まれつき「男らしい男」「女らしい女」はいません。ジェンダーチェックを通じて、「ジェンダー」が付きつける、とてつもなく大きな課題と向き合ってみましょう。



ジェンダーフリーの社会となるには、まず、個人の意識改革が必要です。それは難しいことではなく、相手のことを思いやり、お互いに「人間」として大切に思える気持ちがあれば、少しずつ変わっていくと思います。

ひとりひとりが輝くために

『はすだ男女共生プラン』早わかり講座

「はすだ男女共生プラン」は、女性も男性もいきいきと個性や能力を発揮し、社会のあらゆる分野に参画できる社会づくりに推進するために策定されたものです。計画の目標は、男女共同参画社会の実現で、次の4つを主要課題に平成17年度を目標準度に進進していきます。

I 共に輝く未来のために

男女共同参画の意識づくり

日常生活や習慣の中に残っている固定的性別役割分担意識を解消するために、家庭・学校・職場等あらゆる分野で男女平等の意識づくりを進めていくことが大

II 共に生きる街づくりのために

女性の社会参画の促進

あらゆる分野への女性の参画が進んできていますが、政策・方針決定等の場への参画は少ない状況です。

☆女性問題の学習を通じ人材育成と活躍の支援☆審議会などへの女性の参画促進

III キラリ輝くあなたのために

働きやすい条件整備

ライフスタイルの変化とともに女性の職場進出が進むなか、育児や家事等の両立など、働く女性を取り巻く環境には厳しいものがあります。

☆育児・介護休業法の普及啓発☆女性の労働条件の向上☆ファミリーサポートセンターの充実等に取り組みます。

IV 心豊かな未来のために

人にやさしい社会づくり

人ひとりが、心身ともに健康で安心して生活できるための、健康づくりや病気の予防策が大切です。

☆健康診査体制・母子保健事業の充実 ☆高齢者や障害者の社会参加促進☆アクアピクス教室やジャザサイズ教室の開催等に取り組みます。

ときめきインタビュー

蓮田市長

樋口 暁子

●女性市長として注目を浴びましたが、なぜ市長になろうと思ったのですか

私は蓮田で生まれ育って、子育てやボランティアを通して多くの仲間と知り合いました。そうした活動を通じて教育や介護、環境問題にしても、いままでも女性が生活の中で直面してきたものが、社会や市政にとって重要な課題であ



「男女共生をめざして女性も一歩前へ」

●「はすだ男女共生プラン」の策定には会長と

して参加され、いま市長として実行する立場にあるわけですが、男女共同参画社会についての意見は

●立候補にあたっての「家族の反応は主人とは結婚したときにはなく、一人一人が一緒に生きていく人生を送りたいねと話したんです。だから子どもが4人いて生活も大変でしたけど、仕事も子育ても二人で協力しあってきたし、したいことはするという自由な30年を過ごし、市長になるということがいまままでしてきたことの集大成という思いがありました。ですから主人からの反対はありませんでした。子どもたちも、子育てや仕事に追われながらも、食生活改善推進員協議会の会長をはじめとして、さまざまなボランティア活動に挑んできた私の姿を知っているで、「お母さんならできるよ」と言ってくれました。

●「はすだ男女共生プラン」の策定には会長と

して参加され、いま市長として実行する立場にあるわけですが、男女共同参画社会についての意見は



▲根ヶ谷戸公園にて

今どきの子育て

父親学級をのぞいてみました

保健センターでは、両親学級とは別に、父親学級を開いている。8組の定員は毎回キャンセル待ちが出るほど。厚生省のポスター「育児をしない男を父親と呼べない」は記憶に新しい。男性の育児への参加度は変わってきているのか…。



▲父親学級の沐浴実習

新米パパの沐浴実習 あいにくの雨。集まったのは定員を超えた19名。仕事に妻に尻を押されることなく一人で参加した男性もいた。学級への申し込みは大半が妻。だが、いやいや参加した夫はいない。沐浴の実習で父親の出番、とばかりに、皆真剣に取り組んでいる。取材者に「ボクの帰宅は遅いが、それから入浴させてもよいのか」など、逆に質問される。重みや動きを本物に似せた人形をぎこちなく湯につける様子がほほえましい。

日頃、家事を分担している男性が10名中3名。気持ちはあるが、時間が取れない3名と合わせても、約半数である。彼らの父親の9割が、育児家事をしていなかったというのをみても、特別の家庭環境に育ったとか、特に進んだ意識の持ち主ではないようだ。

「体力の要る沐浴だけは」 「おむつ替えも」と妻の期待もさまざま。抱負を語る若き夫たちに感動しているうちは、まだまだ女も男も昔のジェンダーに縛られているということか。仕事に束縛されず、家庭に戻る目を夢見ようか。

●父親学級とは…

父親学級は、年4回開催します。原則として夫婦での参加。内容は、父親の役割の勉強会・ビデオ・沐浴実習など。



ジェニファー・ジョンソンさん
◇マサチューセッツ州出身
◇大学での専攻 美術史 および文学
◇趣味 スキー、写真、マウンテンバイク
◇英語指導助手として来日

働く女性を支えるプログラムを

日本の伝統文化が魅力的です。昨年、京都と奈良に、人旅した。毎日、やさしく親切な方々と出会い、思い出に残る旅ができた。

母は、大学に通いながら子育てと家事。3姉妹の長女。家族全員力を合わせ、独力で大学を卒業した。夫とコミュニケーションを大切に、育児、家事ともフィフティ・フィフティで力を合わせる家庭が理想。

アメリカのトップは、常に人権の研修を受ける。仕事を持つ女性を支えるプログラムが大切ですね。



女と男—〈アメリカ合衆国の場合〉

市内在住のジェニファーさんと
ブレットさんにお聞きました。

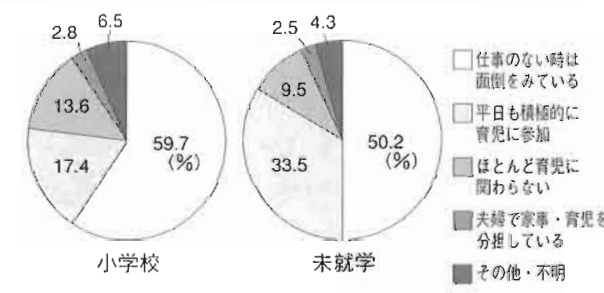


ブレット・ウィリアムズさん
◇オハイオ州出身
◇大学での専攻 日本語
◇趣味 競技スポーツ全般、コンピューター・プログラミング
◇英語指導助手として来日

兄は4年間家庭科を学ぶ 日本には、二度目の来日。飛び入りでみこしを担ぎ、肩が痛かったが連帯感が深まった。銀行経営の厳しい父と、子供が小学校へ入学するまでは家事のやさしい母。7人兄弟のまん中、兄は、高校で家庭科を4年間学んだ。何か困ったことが起きた時は、皆で力を合わせ解決した。何でも話し合い、明るく、どんな困難も乗り越えられる家庭が理想。

TVドラマでは、日本の若い女性は強くなったように見えるが、家庭でもてなし役は女性ですね。

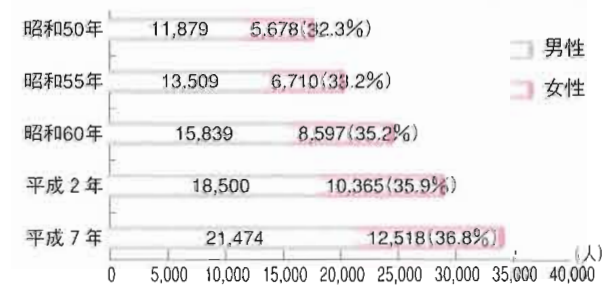
父親の育児への関わり



仕事と育児の両立に必要なこと



就労人口と女性の割合の推移 (国勢調査)



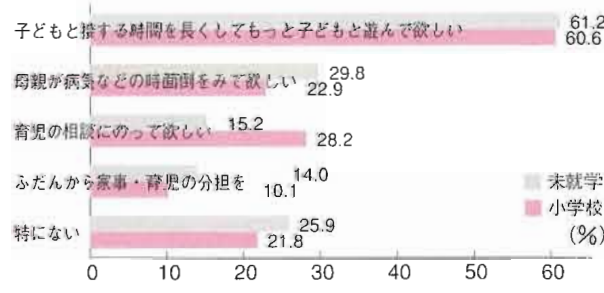
はすだエンゼルプランアンケートにみる

家庭で
社会で

母の意識 父の意識

蓮田ではエンゼルプラン策定のために、昨年11月就学前児童のいる1700の家庭と、小学校低学年児童のいる800家庭に子育ての実態・意識調査を実施、回収率66%という高い有効回答をいただきました。子育てという観点から、家庭や、社会でのジェンダーの実態と意識をかいま見ることができそうです。ここにほんの一部分を紹介します。

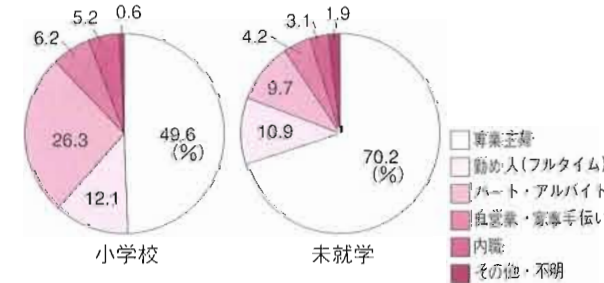
育児・家事 妻から夫へ望むこと



専業主母 子どもが小さいうちは家で子育て

仕事で自分を生かしたい 働くママ

未就学児を持つ7割強が専業主婦。その半数が家庭での子育てを肯定。2割が育児も仕事も望んでいる。一方、有職ママの3割弱が「社会に出たい」「技術を生かしたい」と、収入目的でなく、社会で自分を生かすために働いている。しかし、家事・育児の分担が充分とはいえない様子がうかがえる。



母親の職業